

金沢市無形民俗文化財・金石夏まつり

大野湊神社の

夏季大祭



「大野湊神社の夏季大祭」の由来

大野湊神社の夏季大祭の由来は、神社の縁起と深く関わっています。

【享保14年(1729)5月 大野湊神社縁起より】

「聖武天皇の神亀4年(727)、陸奥の住人佐那が海上を過ぎたとき、丹後三崎浦の方角に照耀の奇瑞を見た。

その夜の夢に猿田彦大神が現れて大野郷の海辺に祀れと告げた。

驚いて船を湊に着け、たどり着いた地を見ると深林があった。

そのためこの地を真砂山竿の林(現 金石)という。

そこにはすでに神明宮が鎮座していたが、

佐那は神明宮の祠官と相談し並べて一社を造立し、

そこに猿田彦大神を勧請して佐那武大明神と称した。

建長4年(1252)に社殿が炎上したため、竿の林から東へ八丁隔てた

離宮八幡宮の社地に新宮を造った。これが今の社地(現 寺中)である。

宮腰(現 金石)の地名は、かつて大野湊神社が鎮座していたところから由来する。」

当時の金石の氏子の人々は遷座を悲しみ、いつの日か元の場所の金石の海岸へお帰り願おうとしますが、海岸の浸食や経済的事由などから、なかなか実現できませんでした。

それならば、せめて年に1回は元の場所にお帰りを願い、感謝の念を捧げようということで、

仮殿を浜に建ててお戻りするようになった、これが現在の大野湊神社の夏季大祭の始まりであるといわれています。

つまり、今日の祭礼初日の行列は、猿田彦大神・天照大神の旧社地(現 金石)への里帰りであり、

最終日の行列は現在の鎮座地への還幸ということになります。

寛永10年(1633)の神輿の棟札には「当社祭礼再興并御輿六十年以来及退転所・・・」とあり、

少なくとも寛永の中頃には、すでに祭礼が行われていたことが史料から裏付けられています。

また、宝暦4年(1754)の「佐那武大明神御神幸行烈之次第」に記載されている行列の基本形態は

現在とほとんど変わりがなく、神社の歴史と深い繋がりを持つ行事の旧態が現在にまで

受け継がれていることがわかります。

「大野湊神社の夏季大祭」は、縁起に沿って現在まで脈々と受け継がれてきた歴史と伝統があり、

平成23年に金沢市で初めて祭礼自体が無形民俗文化財に指定された金沢を代表する祭礼行事といえます。



祭礼行列と民俗芸能

大野湊神社の夏季大祭は、8月の第1日曜日を最終日とする3日間執り行われ、初日・3日目の神輿渡御の行列は圧巻です。
金石各町の荘厳な曳山・太鼓台が供奉するほか、金石の人たちによって受け継がれてきた、様々な民俗芸能が奉納されます。

曳山・太鼓台

神霊が降臨する依り代としての機能も果たすため、高く層をなすとともに、上部に天照大神など神々の人形や神を設けたものが数多くあります。
(各町会)



悪魔払い

山伏が行った厄払いの祈禱が起源。真言密教の要素が濃く、藩政期には市内一円で行われていましたが、現在は沿岸地域を中心に伝わっています。
(金石町壮年会・金石町青年団)



金石市無形民俗文化財 子供奴(奴行列)

行列は2列縦隊で、神輿の先導をする形で進行します。参勤交代を模したのもといわれ、金沢では沿岸部を中心に伝承されています。
(金石御船町子供奴保存会)



金石市指定無形民俗文化財 獅子舞(加賀獅子)

藩政時代に庶民が武芸を隠れて行なったのが起源とも伝えられています。棒振りが獅子を討ち取るという演舞は全国的に珍しいものです。
(金石通町獅子連)



米上げ

神霊に新米を献上する行事で、藩政期から伝わる行事のひとつといわれています。威勢のよい掛声とともに大きく台を振りあげる迫力は圧巻です。
(金石町米上げ保存会)



石川県指定無形民俗文化財 加賀鳶梯子登り

藩政時代、火消しが梯子に登り状況や風向きを確認したことが起源とされています。熟練の団員が、高さ6mの梯子の上で様々な演技を行います。
(金沢第三消防団金石分団)



他、華みこしやYOSAKOIソーランが行列に加わります。

「大野湊神社の夏季大祭」の概要・意義

祭礼前夜、浄闇のなか一つの神聖な忌火だけが灯され、御本殿に鎮まる御祭神が神輿へとお遷りになる神遷し神事が行われ、祭礼の準備が整います。

1日目、金石の人たちの願いにより神社を出発した神輿は、行列を伴って金石の町を經由し、浜辺の仮殿に遷座し、ここで二晩を過ごされます。その間、金石の人々は崇敬の念を捧げるべく参拝されます。海上では大漁祈願・海上安全の祈りが捧げられます。

3日目の還幸には冬瓜町・天磐櫂樟船社、下新浜町・西之宮社を御旅所として祭儀を行い、その間金石の町を巡幸し寺中の大野湊神社へと帰ってきます。担ぎ手の人たちは名残を惜しむかのように、最大の敬意を込め、その日一番の木遣り唄とともに神輿を拝殿にお納めします。そして渾身の悪魔払いが奉納され、3日間におよぶ大野湊神社の夏季大祭は幕を下ろします。

この行列の意義は、御祭神が旧地に帰り新たな神威をもって巡幸し、氏子町がこれを迎え、御祭神は町々の平安のさまを見届け、将来の繁栄を導くという、縁起さながらの行事の旧態を今に伝えているということにあります。

行列の規模は壮大で厳肅な感が深く、都市化の進む現代において特筆すべき、地域の力と誇りによって受け継がれてきた、後世に残していくべき貴重な行事といえます。

地域の人々が暮らしの中で育み、長い年月をかけて受け継がれてきた伝統や文化、祭りは人から人へ直接伝えられるものです。

先人たちによって大切に受け継がれてきた歴史と伝統、先人たちから引き継いできた誇るべき文化、地域の絆を深め人との結びつきを強くする祭りを、

これからも継承し発展させていくことが私たち一人ひとりの使命ではないでしょうか。



大野湊神社

〒920-0341 金沢市寺中町ハ163番地

TEL:076(267)0522 FAX:076(268)3499

URL:<http://oonominato.or.jp>